2024 年度　第３回子ども・子育て会議議事録

2024 年 12 月 16 日（月）18:30～
富良野市複合庁舎１F　会議室Ａ

１．開　　会　　(18:30)

２．教育長あいさつ

みなさんこんばんわ。最近の話題を提供させていただきながらご挨拶させていただきたいと思います。12 月に第４回定例会が開催され、その中で佐藤秀靖議員の一般質問の中で子ども子育てについて、国の進めているこども真ん中社会の実現に向けて富良野市はどのように考えているのか？とりわけ策定中の第３期子ども・子育て支援計画について２期計画をどのようにとらえているのか？という質問を受けました。一つは、６年前に２期計画を策定する前にアンケート調査を行いました。その結果を踏まえて２期計画の中では、子育ての環境そして子育て支援策の満足度を８割に目標設定しました。そこまでには届いていないが満足度（やや満足＋大変満足）の割合が倍増している。そのことをどのようにとらえ、今後にどう活かすのか…というのが質問主旨でした。佐藤議員からは「８割には届かないがこれまでの現場における色々な方々、子育て支援に携わっている方々、子育てに関する方々の連携、そういった中で満足度が倍増していることはすばらしいことだ。そして、もうひとつは８割の目標を下げないで次の計画に引き継いでいくようなことを考えていってはどうか」という話をいただきました。

今回の子ども・子育て支援事業計画は児童福祉に係わるサービスをどのくらい提供していくのかを中心に作られています。市町村こども計画を来年度以降策定することを考えていますが、その中では少子化対策、子ども・若者に対する支援対策（社会にしっかりと参加できるまで支援していく）及びこどもの貧困対策を含んでいなくてはなりません。いずれにしてもこども達が０歳から社会でがんばっていただけるまで、あるいは社会につながっていけるような状態まで、行政だけではなくて色々な関係機関・地域住民の方など様々な方に係っていただきながらこども真ん中社会をつくっていかないと、なかなか成り立たないと思います。今回は、子ども・子育て支援事業計画骨子（案）の説明がこれからあると思いますが、幅広い意見を頂戴しながらより身のある形にしていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

３．会長あいさつ

こんばんわ。早いもので今年度３回目の会議となりました。何かとご多用中のところ出席いただきありがとうございました。こども家庭庁がこのほど補正予算（案）を計上いたしました。総額が 4,335 億円。昨年度が 1,895 億円でしたので昨年度と比べるとおよそ２倍位になっています。その内訳としては、利用者の保育等の情報提供の充実、はじめの 100 カ月のそだちヴィジョンの推進、保育体制の確保、その外過疎地域における保育機能の確保・強化、保育領域の強化、保育士の処遇改善の抜本的改善が挙げられています。国も子ども・子育てに関しましては本腰を入れてきているのかなと思っております。第３期子ども・子育て支援事業計画の骨子案の協議ということで、計画策定には皆さんの多くの意見をいただきたいと思いますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

４．報告事項　　**司会：青木会長**

（１）こども施策に関する研修会について

事前に研修会で配布したレジメ（資料）を事前に送付させていただいています。その資料を使いながら説明をさせていただきます。

１．日　時　　令和６年１１月１２日（火）　１８：３０～２０：１０
２．場　所　　富良野市複合庁舎１階（富良野文化会館会議室ＡＢ）
３．講　師　　（株）保育システム研究所　代表　吉田正幸
４．テーマ　　今後の子ども家庭政策の方向性と課題～包括的な子ども・子育て支援へ～
５．参加者　　４６名（含主催者）

研修会内容➡別紙資料（レジメ）参照
※委員から質疑等なし

５．協議事項

（１）第３期子ども・子育て支援事業計画（骨子案）について

委員の皆様には事前に、「富良野市第３期子ども・子育て支援事業計画（骨子案）」を配布させていただいております。最初に事務局の方から概略等を説明させていただき、その後意見等を頂戴しようと考えていますので、宜しくお願いいたします。
➡別紙骨子（案）にて説明

■委員からの意見等について
川村委員～計画の理念にウエルビーイング記載することは、基本的には問題ないと考える。
山崎委員～２期計画で重点施策として①室内の遊び場の整備　②産婦人科医療、小児科医療の充実　③子育てに伴う経済的支援の充実…を挙げて様々な施策を行ってきたことは良いことだと思う。子育てにやさしい富良野で子育てをしたいという人を増やす、そのための環境づくりをして欲しい。最近ですが、富良野で子育てをしたいという人がいたが、住宅問題…家を建てるとなった時に無理でしたと。上富良野が職場なのですが、美瑛に家を建てた。そういうことを聴くと、せっかく富良野で子育てしたいと思っている人が留まれるような支援ができたらいいと思います。
谷山委員～友達が近隣市町村に転居している現状を目の当たりにしている。美瑛だったり、東川、中富良野など多くの支援がある子育てのしやすい環境の地域に子育て世帯が流れてしまっている。富良野は環境的には良いのにもったいないなと思います。魅力的な政策を打ち出して欲しいと思っています。「子ども食堂」は貧困世帯だけではなくて、子育て支援という面があるのではないか？（計画には記載した方が良い）共働き等で昼間菓子パンしか食べられないような状況の中で、利用している方もいる。貧困といえない家庭の利用も実態としてある。
山口委員～こども食堂を利用できるできない線引きはないので、活用できれば良いと思います。周りの人の中でも活動を知らないという人がいる。
岡野委員～自分が運営している施設を利用している方で富良野で子育てしたいが、富良野市内で良い働き場所が見つからず、他の地域に流れていることを見聞きする。子ども食堂に関

しては、もう少し周知の方法を考えるべきだと思います。
事務局（西出）～この計画の中にどのように明記していくかということを考えた時に、富良野市としては「こども食堂」に関してはなにも取り組んでいない。こちらの方に情報が入っているのは、地域の方やボランティア活動の中で有志の方が活動を行っていることは承知している。国や道の方から食材の提供がある時には、私たちの方から周知をして申し込んでいただいて物資を提供していただいている現状にある。国からの補助が出るような運営には、もう少しレベルの高い運営が求められている。どのような場所でこども達が過ごすべきか、居場所の観点から、経済的に困窮しているからだとか、そこを利用する方々（こども大人を含めて）、色々な目的をもって余りしばりがないものをつくっていただいているものと思っています。行政が四角四面で行うよりは、地域の中で根付いていくと良いなと思っています。地域の現状と今行なっている方の現状をとらえて、この計画にいれるとなったら、支援をどのように行っていくのかを考える必要があると思います。活動はもちろん応援していくのだけれども、どのようにこの計画に載せるべきかといった時には、次の居場所づくり経済的支援といったようなことをこども計画の中で、先ほどの住宅政策を含めて広い観点で計画に盛り込むべきでないかと考えています。事務局の方で今いただいた意見と富良野で行われているこども食堂の現状を照らし合わせて、この計画に盛り込んだ方が良いものなのか検討させていただきたいと思います。
　P26 をご覧ください。子育て支援で重点的に取り組む必要が高い施策ということで、前回のアンケートと今回のアンケートを比較して面白いのは、室内の遊び場のパーセントが前回よりぐっと減っている。庁内に遊び場を作ったからだと思います。ただ、上位３位までには入っているので今後取り組む施策からは外せないと思います。前のページ（P25）の「子どもを育てていく上での困りごと」でいくと、やはり家計の負担が大きいがまず出てくる。その次に発育や発達に気がかりがある、子育てと仕事の両立、子どもが言うことをきかないとか…子育てに関することが上位に挙がっているので、室内の遊び場はなんとか富良野市で作ったよ、次は子育て支援育児支援というところに力を入れていくべきでないかということを考えています。子育て支援の質の充実、教育・保育の質の向上に重点を置いてはどうかというところを提案させていただきたいと思っています。皆さんの意見を聴くと、仕事・住宅・経済的支援を少し何か改善しないと次の子育てには届かないのだと思いました。次の大きな計画に向けては、私達担当課から違う部局へ政策への声としてあげていかなければならないと思っています。子ども食堂については富良野市としての方向性は定まっておりませんが、趣旨は十分理解しているつもりなので検討していきたいと思います。
青木会長～子ども食堂を実際どのような方が利用しているかなどをリサーチする必要があると思います。北海道幼稚園協会では、先生方の研修会を開催しています。研修費に 100 円 200 円を上乗せして、上乗せした分を子ども食堂に寄付をする事業をしています。色々な支援の仕方があるので、富良野の現状に合わせた支援をしていくことが必要ではないかと思います。優先順位をつけながら重点的に行うことが大切だと思いますので、具体的に記載する必要性があると思います。
川村委員～医療の関係はドクターだけの問題ではなくて、看護師さんの課題もあると思います。外国人の来院が増えその対応に医療従事者が時間を取られている現状がある。協会病院の体制を充実させる必要があるのではないか。個人病院が対応するのはかまわないが、キャパシティの関係があるので、対応が困難な面がある。医療関係への支援は、自治体レベルでの対応が必要だと思います。看護師さんが少ないと思います。特にコロナ以降、そう思います。コロナにり患するとコロナの陽性が抜けないと、職場復帰できない。職場の負担が増えるということになり、都市部へ人材が流れているようである。処遇改善で国からお金も出る

が、そのためには膨大な書類の提出が義務づけられている。事務方も疲弊している。遠隔治療など、医療に係る環境を整備する必要がある。
山口委員～スキー場の利用に際して、利用料が高いという意見を周りのお母さん方から聴く。
笹田委員～今シーズン、市民割引で１日券 7,500 円が 2,000 円で利用できる。レンタルも割引があったと思います。
佐藤部長～小学生はプリンスが、中学生は市がスキーリフト搭乗券の支援をしています。
西尾委員～計画数値目標の設定が満足の割合を８割以上となっています。２期計画でも同様な数値目標となっていて、３期計画を策定するためにニーズ調査を行った結果、満足度は確かに上がりましたが８割には届いていない。目指す目標としては良いと思うが、今後５年間の計画で現実的に目標値の達成は困難だと思います。達成できる目標値としては、５割６割が現実的ではないか。
事務局（山本）～もっともな意見だと思いますが、第３期子ども・子育て支援事業計画として８割を目指していくということなので、事務局としては変えるつもりはありません。現実的には西尾委員が言われたとおりだと思うし、達成はかなり困難であると事務局としても承知しています。国の施策としても「こどもまんなか社会の実現」を目指しており、様々な子育てに係る施策が矢継ぎ早に出ている状態の中で、数値目標を下げることは考えていない。
佐藤部長～議会の一般質問の答弁の中では、「子ども・子育て会議」の中で協議を行い目標設定していきたいと答弁している。２期計画で数値目標を８割と設定していて、３期計画でそれを下げるということは、なかなか困難だと思います。
笹田委員～100 点を目指さないと 100 点はとれないと思います。
宮田委員～目標として８割を掲げるのは良いと思います。子育ての経済的支援が目的ごとの現物支給が良いと思います。子育て支援の経済的支援が必ずしも、こどものために役に立っていないケースがあると思う。しっかりとこどもに還元される、支援される施策の制度設計が必要だと思います。子育て支援の現金支給が必ずしもこども支援になっていないケースがあると思います。小児医療の充実は、国をあげて行って欲しいと思います。全てのこどもが教育・保育・経験が等しくできる社会になれば良いと思います。
谷山委員～こどもの免疫力が低下しているのは食が原因だと言われている。食育に力を入れて欲しいと思います。
佐藤部長～学校給食では、なるべく国内産（道内産）の食材を利用している。
山崎委員～経済的支援で満足度を上げるといったところで、小学中学校でずーっと給食があって、兄弟が多いと給食費の額が大きくなって親の負担が大きいといったことを聞いた時に、次の計画で何かそこの所を補助できる施策ができないものか。また自治体によっては給食費の無償化が進んでいるところもあります。食費は全ての家庭に平等にかかるので、食の支援といったところで、小中学校の給食費支援があると満足度の数字も違ってくるのではないかと思います。小中学校給食費の支援が何かあれば良いと思いました。
佐藤部長～保護者の収入によりますが、小中学校では学校給食費も含めて就学援助制度があります。給食費の無償化についても昨年度から話が出ていますが、継続的な費用の支出が必要となり、今はまだ取組めていない。悩んでいるところです。ふるさと納税を利用して、昨年度はこども家庭センターの建設、高校生までのこどもの医療費無償化等に対応している。
川村委員～給食の現状ですが、人件費も上がり食材費も上がっている。最近ではむしろ既製品の方が安くなってきている。人を使わないでなるべく既製品を使い、素材を変えて対応している事業所もありまっす。。
　ふるさと納税を上手く子育て支援に使えないかなとは思います。現金を保護者に支給すると、こどものために使わないことも考えられるので、先ほど話のあった現物支給は良いなと

私も思います。若者が富良野に残ってくれる、Uターンで帰ってくるまちづくりをしていただきたい。また、子育て支援に係る情報発信をうまくしていただきたいと思います。
佐藤部長～ふるさと納税は毎年必ず入ってくるかどうかわからないので、恒常的にかかってくる費用に充当するとお金が入ってこない時に困るので、そういう所には充当していないのが現実です。施設整備の一部としてふるさと納税を財源としていますが、経常的な経費には利用していないのが現状です。職員の提案で住宅の政策として、市営住宅を壊した後の土地を子育て世帯へ安価に斡旋する事業を去年からはじめている。住宅の方は、リフォームの補助はあります。
青木会長～若い世代には映像での情報発信をしなければならないと思います。文字や話での情報発信ではなく、視覚に訴えかけるような情報発信が必要です。教育・保育の人材確保が必要です。
事務局（西出）～宮田委員がおっしゃっていただいた「何か現金を給付するよりは、全員のこどもが恩恵を受けるような施策は、とても大事な考え方だと思いました。私たちの施策の中にもその考えをしっかり持ってやっていく必要があると思いました。こども未来課では、現在来年度の幼稚園・保育所の入園・入所の申し込みを受けている時期なのですが、小さなお子さんを抱いたお母さんが申込みに来てくれています。先週小さな子さんを抱きかかえたお母さんが４人目のお子さんだということで申し込みに来てくれました。３人目から４人目に少し間が空きました…ということで、可愛いんですと言っていました。雑談にも対応してくれて、上の中学生の子が朝登校しようとする時にはまだ寝ているので、ずっとその子（妹）を見ていて学校に行くのがぎりぎりになってしまうのですと笑ってお話ししてくれました。理想はそのような形なのではないかなと思います。そういう家庭が一杯増えると良いなと思いつつ、現実的には住宅政策とか経済対策とかがやっぱり必要なのかなと思います。幼児教育のヴィジョンではないですが、アタッチメントから始まるソフトの部分と経済的支援（ハード）が子育て支援の両輪だなと、皆さんのお話を聞いて再認識しました。
青木会長～ハードとソフトが両輪ですが、基本的な部分はソフトかなと思います。ある教育者が、愛情を一杯もらったこどもはとても好奇心旺盛で探索活動を行うけれども、愛情をもらわなかったこどもは大人を困らせる…と言っています。こどもは愛されて人を愛することを覚える。愛情をもらわなかったこどもは、自分をも愛せなくなると思います。アタッチメントができるまちづくりが大事なのかなと思いますし、子どもの笑顔の溢れるまちづくりを望んでいます。
基本的にこの骨子（案）でよろしいでしょうか？　➡　了解（各委員）

６．その他（事務局）

今回いただきました意見を参考に、事務局で骨子内容の再検討をしたいと思います。

次回第４回目の会議の開催ですが、１月中を予定しております。近くなりましたら、委員各位に改めてご案内申し上げます。次回は素案の協議を行う予定です。

７．閉　会　　**(20:15)**